

三 宮 十五郎 議員



情報を公開し市民の納得を得て行政を進めたか

質 三宮議員

川瀬市長の政治姿勢についてお尋ねします。

4年前の町長選挙に当たって、多選の弊害などの批判を意識されてか、「新しい時代のまちづくりを皆さんとともに」のスローガンを掲げ、「5力年で学校・保育所などの公共施設の耐震対策と避難所の充実を図ります」、「市町村合併問題、まず十分な判断材料の提供を」として「議論を尽くし住民投票を含む皆さんの望まれる方法で決められるようにいたします」、「情報公開、公正な住民参加の町づくりを進めます」、「町づくりは人づくり、教育・社会教育・文化・スポーツ活動への支援をいっそう充実します」などの公約を記した後援会ニュースを配布され

ました。

公約の多くが、当時の行政に対する改善要求の強いものであり、これらの諸課題に誠実に対応する意志さえあれば、行政と住民の信頼と協力を前進させる要となるはずでした。

私はこれらの公約は守られなかったのではないかと思います。市長の率直な自己評価をお伺いします。

また、この間、市民や職員が「市長、これはおかしいのではないですか」という提案ができない状態がつかわれ、結果として、新聞などで「いったい弥富は何をやっているんだ」と報道される原因になっているのではないかと思えます。

資料・情報を公開し議論を尽くす。法と道理に基づき、市民や職員の納得を得

て、議会の合意に従って市政を進める。これが現在の多くの市民の願いであり、要請であると思いますが、いかがですか。

住民の提言を行政に反映してきた

答 川瀬市長

私が、町政および市政を担当して、間もなく16年が過ぎようとしています。常に「住民との対話」を政治の基本姿勢として

「任んでよく、暮らして楽しいまちづくり」に向け、最大限の努力を傾けてきました。

「まちづくり」とは、行政の判断だけではなく、住民の皆さんの意見を聞きながら、住民と協働してつくり上げていくことが大切であると考え、これまで、できる限り地域に出掛

け、できるだけ住民の生の声をお聞きしてきました。また、中学生による模擬議会、町政懇談会・まちづくり懇談会・市政代表者懇談会などで意見・提言をいただき、町政・市政に反映してきました。

合併問題についても、住民の代表である議会議員や、各地区の区長および各種団体の役員の皆さんの意見を十分に拝聴しながら進めてきたところですので、ご理解をお願いいたします。



▶中学生模擬議会